

職域健診機会を利用した検査機会拡大のための新たな HIV 検査体制の 構築に向けた研究

—健診センターにおけるオプション検査としての実施の可能性の検討—

研究分担者 石丸 知宏 産業医科大学 産業生態科学研究所 環境疫学 准教授

研究要旨

HIV検査はプライバシーの保護に留意を要する検査であり、受検の有無や検査結果が職場の関係者に把握されないような仕組みづくりが必要である。近年普及しつつある郵送式HIV検査キットを健診施設での職域健診時に併用することで、受検者のプライバシーに配慮したHIV検査機会を提供できると考え、その運用を立案した。本研究の目的は、健診施設における郵送キットを用いたHIV検査機会の提供の実証および運用上の課題を抽出することである。

2022年8月2日、福岡県内の健診機関Aで健診業務に従事している職員を対象に郵送式HIV検査キットを用いた健診サービスの提供を行った。当該サービスが滞りなく提供できるか実証的に確認するとともに、よりよい運用に向けた方策や課題をアンケートにて抽出した。

6名（医師2名、看護師4名）が郵送キットを用いたHIV検査を実施した。市販の郵送式HIV検査キットを用いることで、プライバシーの保護に留意したサービスを提供でき、アンケートの結果から検査結果の確認、医療機関の紹介、結果消去の機能などに高い満足度が得られることがわかった。参加者から本実証を通してHIV検査の受検のみならず、HIVそのものについて改めて学習するよい機会となったとの声があがった。その一方で、プライバシーの保護に関して、名前でなく番号で呼び出しを行う、パーテーションを設置する、など様々な意見が出ており、健診センターでのHIV検査の実施にあたっては追加配慮が必要であることが明らかとなった。

本実証により、健診センターにおけるオプション検査として、郵送式HIV検査キットを用いたサービスが一つの提供モデルとなりうることが証明された。アンケートで得られた意見をもとに、「健診施設における郵送キットを用いたHIV検査マニュアル」を作成、研究班HPで公開した。

A. 研究背景

HIV検査はプライバシーの保護に留意を要する検査であり、受検の有無や検査結果が職場の関係者に把握されないような仕組みづくりが必要である。本研究班による2020年度の調査により、HIV検査を職域健診で提供する際のプライバシー上の工夫として、健診施設内でのHIV検査の提供および職域健診の結果報告書にHIV検査の結果を記載しないことが重要な点として挙げられた。これらの知見を踏まえ、近年普及しつつある郵送式HIV

検査キットを健診施設での職域健診時に併用することで、受検者のプライバシーに配慮したHIV検査機会を提供できると考え、その運用を立案した。しかし、多くの健診機関ではこれまで郵送キットを用いたHIV検査を活用した実績がないため、その運用にあたっては様々な課題があると考えられる。

そのため、本研究の目的は、健診施設における郵送キットを用いたHIV検査機会の提供の実証および運用上の課題を抽出することである。

B. 研究方法

本研究は郵送式HIV検査キットを用いた健診サービスの提供を通じた実証の観察ならびにアンケートを用いた質的調査である。具体的には、福岡県内の健診機関Aで健診業務に従事している医師、看護師、保健師、検査技師、医療事務を対象に、郵送式HIV検査キットを用いた健診サービスを提供し、当該サービスが滞りなく提供できるか実証的に確認するとともに、よりよい運用に向けた方策や課題をアンケートにて抽出した。

1. 実証の手順

郵送式HIV検査キットを用いた健診サービスとして、研究協力機関の職員会議室に仮設の受付、記入スペース、採血スペース、回収スペースを設け、以下の手順で実施した。

1) 研究対象者は事前配布したHIV検査希望の用紙を受付に提出する。

2) 研究対象者は受付で郵送式HIV検査キットと検査申込書を受領後、記入用スペースに移動して検査申込書に必要事項を記入する。

3) 研究対象者は採血スペースに移動してランセット針を用いた指先での採血を行い、ろ紙に塗布する。

4) 研究対象者は採血後のろ紙と検査申込書を袋に入れた後に、回収スペースにある回収ボックスに提出し、アンケート用紙と検査申込書の控えを受領する。

5) 研究対象者は委託会社が提供する検査結果の閲覧サイトに後日アクセスし、検査申込書の控えに記載のIDやパスワードを入力して、自身の検査結果を確認する。検査結果は1週間以内に検査結果サービスのサイトに登録される。

2. アンケート

1)から5)まで実施した後、研究対象者は自由記入式アンケート用紙に健診施設での郵送式HIV検査キットを用いたHIV検査

提供に向けた方策や課題を記入した。

質問票から得られる回答は、①全体、②手続き（申し込み、検査の流れ、導線）、③郵送検査キット（採血の行為、器具、説明書）、④検査の環境（部屋）、⑤検査のスタッフ（人員配置、サポート）、⑥検査結果の確認、⑦その他、に関する意見（良かった点・改善が必要な点など）とした。

それぞれの意見をまとめ、郵送式HIV検査キットを用いた健診サービスの課題を整理し、運用マニュアルを作成した。

本研究は、本研究は、産業医科大学倫理委員会の承認を得て実施した（受付番号R4-018）。

C. 研究結果

2022年8月2日に本実証を行い、6名が参加した（有効回答率100%）。本実証では、特に大きなトラブルも発生せず、参加者全員が郵送キットを用いたHIV検査を実施した。参加者の属性は医師が2名、看護師が4名だった。各設問に自由記載された意見を示す。

1. 全体

「健診では、個別に来る場合と会社で集団数名で来る場合があります。検査に参加しにくい場合が想定されます。」

「治療につながりさえすればウイルス量を抑えて感染させないということなので、入口の検査を進めることはとても大切だと思います。その手段として、企業の健康診断を利用することは窓口を広げることにつながると思いますが、検査を受けることを会社に知られたくないと思う人も多いのではないかと思います。個人的にネットで検査の申し込みができたほうがよいのではないのでしょうか？」

「保健所は行きにくいけど、健診のついでなら受けられる環境を作ることは良いことだと思います。」

「健診と同時受診であれば、受診者は自

分でランセットを使用し、検査するという認識で申し込む人はどのくらいいるのか疑問に思いました。」

「会社に知られず検査ができる＝自分で検査、ということをわかりやすく提示する必要があるのではないか。」

「健診施設で受ける場合も保健所と一緒に無料なのでしょうか。HIV検査を施設健診で実施できるようになった場合の健診機関のメリットはどのようなものがあるのでしょうか。（場所や人員など必要となればメリットがなければ難しいと思います）。」

「健診の中でHIV検査できることはとても画期的だと思います。保健所等に比べるとかなりハードルが下がるのではないかと思います。ただ、部屋や流れや他人の目など気になることもあると思うので、健診のOCRと同封し、健診の受付で提出してもらうのも方法としてはあるのではないかと思います。そうすることで自宅でゆっくり読んでもできるのかなと思いました。」

「セットがコンパクトに設計されていて、針（色やデザイン（流線形）もよい）にも恐怖感がなくて臨めました。」

「自分で検査ができる方法はきちんと主義を実行できれば、とても利用しやすいと思います。」

「はじめはやはり動画学習と少人数グループ制などすぐに聞ける体制が良いのではないかと思います。」

「利便性としては、施設健診と言う場であれば受診者の方は受診しやすいと思います。事前に啓発活動（検査の意味、治療できる病気であること等）が行えれば受診希望される方も増えると思います。」

「検査手技も動画で流す等するとより分かりやすいと思います。（健診の場であれだけの説明書を熟読するのは難しいです）」

「申し込みの記録が残ること自体がストレスになるかもしれないので、完全に匿名であれば、申込書自体は必要ないのではないかと思います。」

2. 手続き（申し込み、検査の流れ、導線）

「実際に検査して実施するまで時間がかかりそうです（説明書を読み、理解するのに）。健診の流れよりも個別・自宅でゆっくりがよいかもしれません。」

「申し込みが会社の担当者を通さず、個人的にできるといいのではないかと思います。検査キットも自宅に届いた方が安心して受けられるのではないのでしょうか。健診施設ではまだ受けやすいと思いますが、巡回バスで企業の中で行うとなると心理的に受けることに抵抗があるように感じます。」

「自施設のスタッフ対応ではなかったため、実際のところはよくわかりませんが、申し込みは特に問題ありません。検査の流れ～導線については施設で自身で行っていただく場合、プライバシーの保護を考える必要があると思います（個室は不要？もしくは衝立など）。また、掲示資料は採血のみならず、最初から封入まで手順があった方がよいと思いました。」

「他の検査は全て名前で確認しながら実施しますが、この検査については番号になるのか、名前は呼ばないようにするのか、どうなるのでしょうか？（もし待つ方が発生した場合）」

「説明書に手を洗ってと書いていたので洗面所が近いといいのかなと思いました。」

「申し込み、導線もよかったですと思います。記入方法も悩まずでき、控えを複写で持っておけるのもよいです。」

「健診機関にもよると思いますが、スペースの確保が課題と思います。気にされる方もいると思いますので、個別ブース型ができればと思いますし、手順が分からなくなった時に質問できるように人員配置や呼び出し方法も工夫がいろいろあります。」

「手洗い場所、ゴミ箱も近くにあるとよいと思いました。出血量が多い人用にテ

「イッシュや次の人が使用する前に消毒も必要です。」

3. 郵送検査キット（採血の行為、器具、説明書）

「完結型でよく考えられていてよかったです。ご覧いただく順番、フローがもう少しわかりやすく目に入るようにしたらいかがでしょうか。」

「採血キット、ランセットは少し抵抗、不安がありました（チクツとする痛みがどういう痛みなのか、主観で難しいと思いますが）」

「採血は思ったよりも痛かったです。個人差があると思うので仕方ないことです。

採血量が足りず2回採血になったため、2本ランセットが入っていてよかったです。」

「採血の行為は少し怖かったです。痛いと感じました。施設で受けるのに、残血清でできないのかと疑問に感じる方もいると思いました。」

「ランセットは簡便なもので使用しやすかったです。痛みがなければいいのです。」

「書類が申込書を入れて5種類もあり、どれを見たらいいかわかりにくかったです。見てもらいたい順にわかりやすく番号を振る、同じ大きさの用紙で取扱説明書みたいにするなど。」

「採血に失敗して2度指す方がおられることを想定してランセットが2つ入っているとします。刺す場所を変えた方のために、予備の絆創膏があってもよいと思いました。」

「説明書はわかりやすかったのですが、健診中だと眼鏡を持っていない方もいるので、老眼鏡若しくはポスター等大きく印刷された者が必要かと思えます。」

「採血はやはり怖さがあるので、思えない方もいるのではないかと思います。」

「血液が足りず2cm足りなかった場合や2回採血して血液を足してもいいのかなど、Q&Aを貼っておくとその都度聞かず

にできるのではないかと思います。」

「採血は実際にしてみると、やはり「チクツ」とする痛みは感じた。ただ、痛みはそうでもないから、動画のメッセージは受検しやすい雰囲気づくりに良いと思います。」

「ろ紙が4本ついていました。実際には「あなたは何個に血液採取してください」と伝えるような運用になるのでしょうか？」

「2回採血しました。途中で採血できず、不足のためですが、指の少し先端に2回目を行うことで採血できました。非医療職の方は不安（気持ちと使用方法）はより大きくなるのではないかと思います。導入説明会と実際にしてもらった日時をわけて再度説明や実施日説明、アドバイザーの必要性はありますでしょうか。」

「器具が1回のみ使用（針が出ない）の安全設計になっていました。」

「検査申込書の申し込みIDとパスワードはご自身で決めた数字でと左側に係れていましたが、目に入りませんでした。右から左、上から下に呼んでいきますので、右か上に注意事項を書いていただくとよいと思います。」

「動画やもう少しシンプルな説明書があればよいと思います。」

4. 検査の環境（部屋）

「どれくらい検査されるかによりますが、部屋を1室確保するのは難しいことが予想されます（検査室、問診、保健指導（特定保健指導外来の要望が健保から強いため）の部屋が足りていません。）」

「数名の希望者で検査するときには会議室のような場所であれば嫌な人もいるかもしれないため、ブースのような感じにするとよいと思います。」

「消毒綿はキットの中に入っていました。流血したのでティッシュなどがあればよいと思いました。また、キット内ではなく、施設で絆創膏を準備、もしくは「お声がけください」などの対応もでき

るかもしれません。」

「なんとなく仕切り番があるといいのかなと思いました。」

「部屋の環境、広さ（対人数割合）は良好でした。」

5. 検査のスタッフ（人員配置、サポート）

「説明書はわかりやすかったものの、実際には尋ねたくなるのではないのでしょうか。対応する人員を考慮する必要があると思いました（様々な職種の方がいるので、理解力に差があることが予想されます）。」

「説明書を読めば検査の方法はわかると思いますが、近くにスタッフがいてくれると安心だと思います。わからないことはすぐに答えてもらえると助かります。」

「家でゆっくり説明書を見ながらするのであれば出来ると思いますが、なんとなくバタバタした環境の中で実施するのであればサポートする人が必要だと思います。ただ、サポートする人がいた場合、怖くてランセットが押せない人がいた時に解除してほしいなど頼まれたりする可能性があります。」

「説明書はわかりやすいですが、やはり疑問点が出てくるのでスタッフが受付以外にいるとすぐに聞けていいのではないかと思います。」

「採血の時、分量かどうかのアドバイスもいただきました。一般の方や採血手技経験の有無によりアドバイザー人数の調整を検討ください。」

「聞きやすい状況や呼び出せる、またはネットでつながる（画像）など必要と思います。」

「迷走神経反射等に備えて見守り、救急対応が必要です。」

6. 検査結果の確認

「検査結果の確認はスムーズ、申込書の控えもあり、IDやパスワードの入力もしやすい。匿名検査であり、安心できました。」

病気の説明もわかりやすく、動画もよいと思いました。また、医療機関の検索もしやすかったです。」

「説明を受けたのかもしれませんが、いつ結果が出るのかわからなかったです。お客様控えに受付日から1-3日後に結果が出ると書いてあったので、よく読めば分かったのですが。」

「結果の画面に病院が検索できるようになっていたことが良かったです。」

「特に問題なく確認することができました。郵送キットの下の方にPC、スマホ、タブレット対応の表記がありますが、そこにもQRコードがあるといいと思いました。」

「会社のPCで確認しましたが、大きく〇〇ですと出たらどうしようかと思いましたが、ぱっと見はわからないくらいのさりげない結果の提示でよかったです。また、なぜ3か月の説明が詳しく書いてあり、わかりやすかったです。」

「同ページから医療機関を検索出来たり、データ消去できるのもよいと思いました。」

「ログイン後、結果発表（いつ頃です）のメッセージに信頼感がわきました。」

「結果表の発行、案内状の発行も、セルフでしたい人ができる仕様は素晴らしいと思います。」

「医療機関の検索期間も近医を見ることができました。陰性陽性に関わらず、有症状者へのケアの点も行き届いていると思います。」

「完全に匿名なのが良いと思いました。」

7. その他

「きちんと説明書を読めば、必要なことは書かれていると思いますが、とにかく説明書を見るのが面倒に感じてしまいました。実際に検査を受ける人は気になっていることなので、細かに説明書を見られているのだろうと思います。動画で検査の方法が見れるところが良かったです。」

「HIVは不治の病で死に直結しているイ

メージでした。特に40-50代以降の人はそのころはやっていたドラマの影響もあり、感染—発症—死亡の印象があります。見つければコントロールできる病気になった、だから発見しましょう！という広告が必要に感じます。若者を中心にSNSなど利用し、宣伝してみるなど。」

「HPはすごくみやすかったです。病院検索もできてとてもよいと思いました。」

「施設側の問題になりそうですが、オプションであれば支払いの時にHIV検査代は…など言わないようにする必要があります。」

「治療をすることで99%が発症しないことや治療法も多くあること、昔のように不治の病ではないことをもっと周知できたら、検査を受けやすくなるのではないかと思います。」

「その他のSTDも同時に検査できるとよい。」

「利用しやすく、希望する人がアクセスしやすい環境を整え、広く普及できることを願っています。」

「データの消去も自由意志で実行できることもよいと思いました。」

「安価（500円くらい）で自動販売機などで変えて自己検査できると気になっている人は検査を匿名で受けやすいのかなと思いました。さすがに無理でしょうか？」

「社会全体に対する啓発活動が絶対に必要です。偏見が残る中で職域健診は難しいです。」

「保健所以外でも街中で（今のPCRセンターみたいに）受けやすい環境が作れると良いと思います。自己採血なら薬局なども可能かもしれません。」

「公共広告機構（AC）などでCMを流してほしいです。発病を抑えられる病気なのでまず検査を。」

D. 考察

本実証により、健診センターにおけるオプション検査として、郵送式HIV検査キットを用いたサービスが一つの提供モ

デルとなりうるということが証明された。市販の郵送式HIV検査キットを用いることで、プライバシーの保護に留意したサービスを提供でき、アンケートの結果から検査結果の確認、医療機関の紹介、結果消去の機能などに高い満足度が得られることがわかった。参加者から本実証を通してHIV検査の受検のみならず、HIVそのものについて改めて学習するよい機会となったとの声があがった。そのため、健診センターにおけるオプション検査の提供は労働者のHIV感染症の教育機会としても寄与する可能性がある。

その一方で、プライバシーの保護に関して、名前でなく番号で呼び出しを行う、パーテーションを設置する、など様々な意見が出ており、健診センターでのHIV検査の実施にあたっては追加配慮が必要であることが明らかとなった。そのような意見を集約し、「健診施設における郵送キットを用いたHIV検査マニュアル」を作成、研究班HPで公開した（添付資料1）。また、自己採血に関する恐怖や痛み、再採血など、検査キットに対する不満の声が上がった。そのため、残血清を使用したHIV検査など、受検者の負担の少ないHIV検査のあり方について引き続き検討する必要がある。

E. 結論

本実証により、健診センターにおけるオプション検査として、郵送式HIV検査キットを用いたサービスが一つの提供モデルとなりうるということが証明された。そのため、アンケートで得られた意見を集約し、「健診施設における郵送キットを用いたHIV検査マニュアル」を作成、研究班HPで公開した（<https://brta.jp/topics/232>）。

E. 研究発表

1. 論文発表
なし

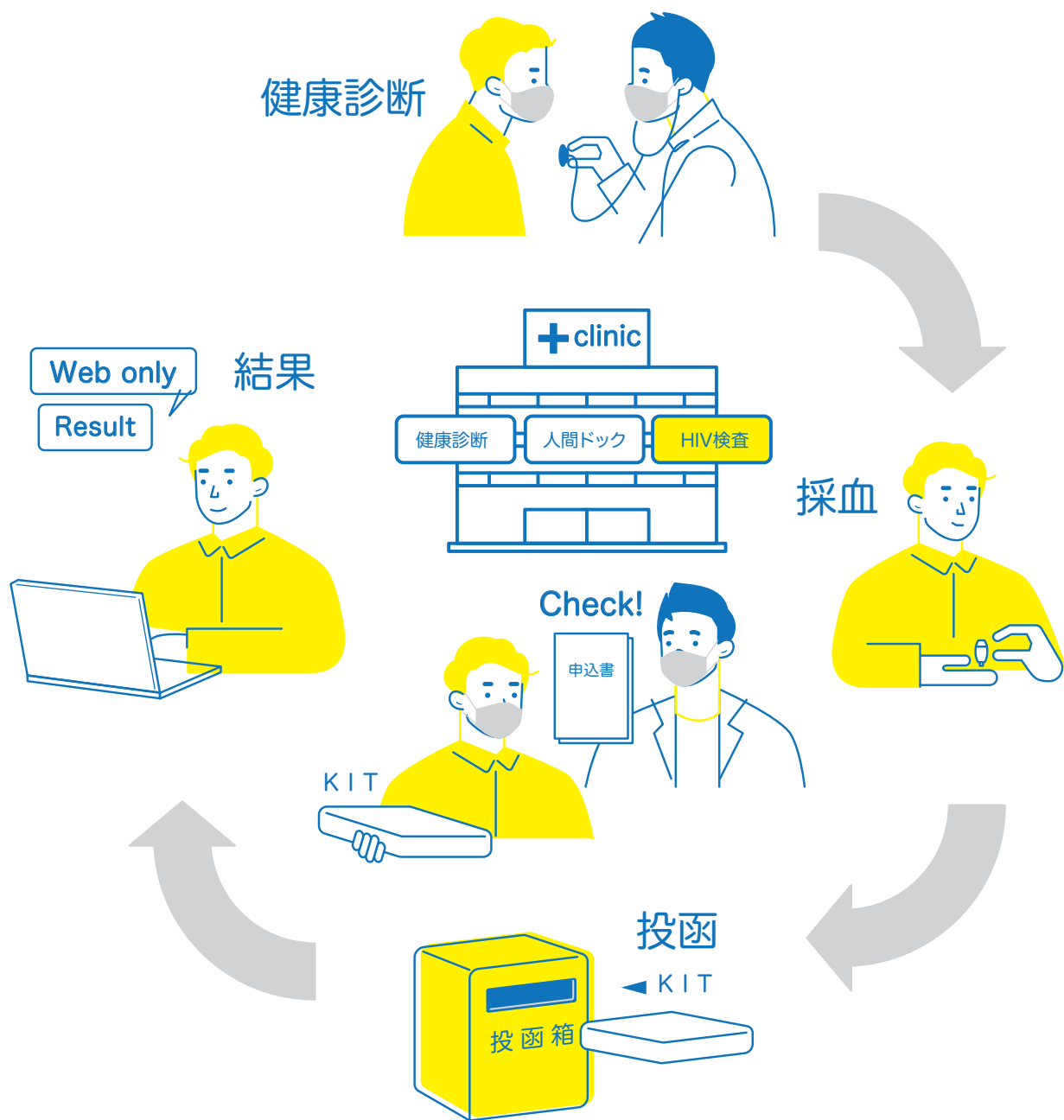
厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書

2. 学会発表

渡邊聖二，轟木基，石丸 知宏．事業場
における健康情報等の取扱規定の策定の
現状．第95回日本産業衛生学会，高知．
2022年5月．

F. 知的財産権の出願・登録状況

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 特許取得 | なし(非対象) |
| 2. 実用新案登録 | なし(非対象) |
| 3. その他 | なし(非対象) |



健診施設における郵送キットを用いた

HIV 検査マニュアル

健診施設における郵送キットを用いた HIV 検査マニュアル

昔は不治の病というイメージがあったエイズですが、治療の進歩によりHIV感染早期にきちんと治療を受ければ、エイズを発病することもなく、普通の生活を送ることができるようになってきました。早期発見と治療のためにHIV検査が大切です。

職場や健保組合の健康診断や人間ドックは様々な病気を見つける機会になっており、すでに各種がんの検査、肝炎ウイルス検査が広く行われています。その一方で、エイズはいまだに差別や偏見の強い病気であり、HIV検査機会の提供にあたっては、以下のような配慮が求められます。



- だれがHIV検査を受けたか職場の人に知られないようにする
- HIV検査の結果がどうであったか職場の人に知られないようにする

これらに配慮したHIV検査の提供方法の一つとして、郵送キットの活用があります。自宅などでランセットという小さな医療用針を用いて指先から微量の血液を自身で採取し、検査機関に郵送することで、検査結果をウェブサイトで見ることができサービスの中で、近年様々な場面で用いられるようになってきました。

本マニュアルでは、健診施設での郵送キットを活用したHIV検査を提供する際の運用とその際に使用できるツール、書式をまとめています。

【1】郵送キットを用いたHIV検査の流れ

健診施設での郵送キットを活用したHIV検査には、健診施設で郵送キットによるHIV検査を行う「完結型」と健診施設で郵送キットを配布し、自宅などでHIV検査を行ってもらう「配布型」があります。本マニュアルは前者の運用について紹介しています。

●受検者本人が行う作業は以下の通りです。

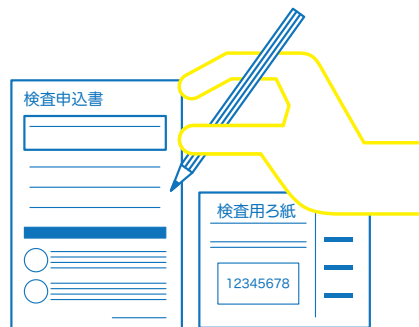
1 検査希望の申し込み



2 検査キットの受領



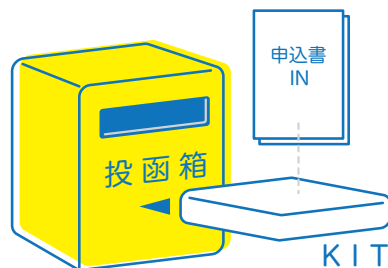
3 検査申込書の記入



4 自己採血



5 検体と検査申込書の封入と投函



●健診機関が行う作業は以下の通りです。

1 検査希望の申込書の配布



2 検査希望の申し込みの受付

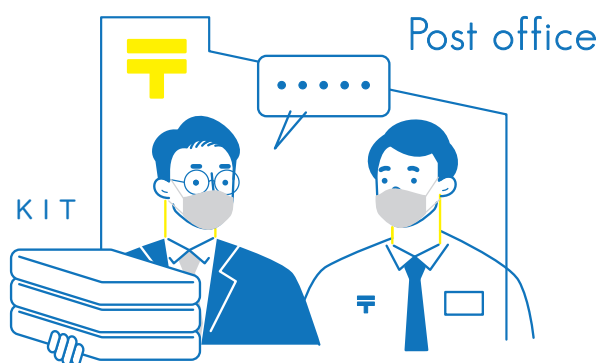


3 検査手順の説明と検査キットの配布



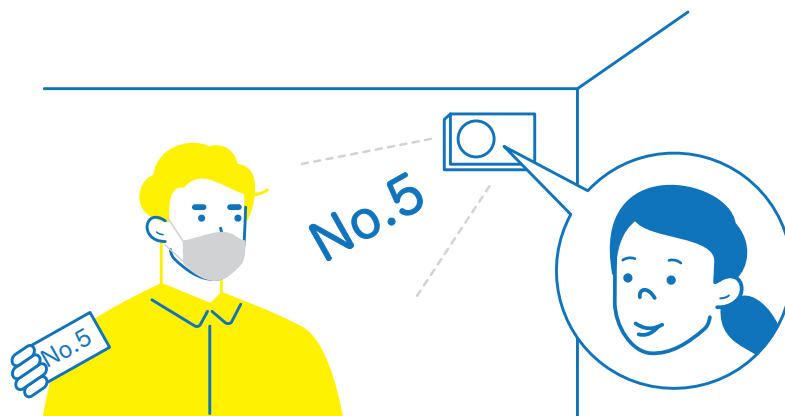
4 検査申込書の記入や自己採血のサポート

5 郵便物(検体)の回収と郵便局窓口での発送手続き



【2】郵送キットを用いたHIV検査を行う際の運用

1 受付



●職場や健保組合の健康診断や人間ドックに加えて、郵送キットを活用したHIV検査の希望があるか受検者に確認します。確認方法の一つに、検査希望の申込書を事前に配布しておき、検査当日に持参してもらう方法があります（添付資料1）。

●受検者には受付番号を付与し、呼び出しの際には名前ではなく番号で呼ぶようにします。

2 会場



●HIV検査を行う会場は他の受検者とは別にするなどプライバシーへの配慮が必要です。独立した会場を確保し、検査の説明、自己採血のサポート、検体の回収を行うスペースの確保、机やパーテーションの設置、スタッフを配備する必要があります。

●検査会場は、検査キットの配布と説明を行う受付カウンター、各受検者が検査申込書の記入と自己採血を行うブース、郵送物を投函するスペースで構成されます。検査の一連の流れを考慮した導線を設計します（添付資料2）。

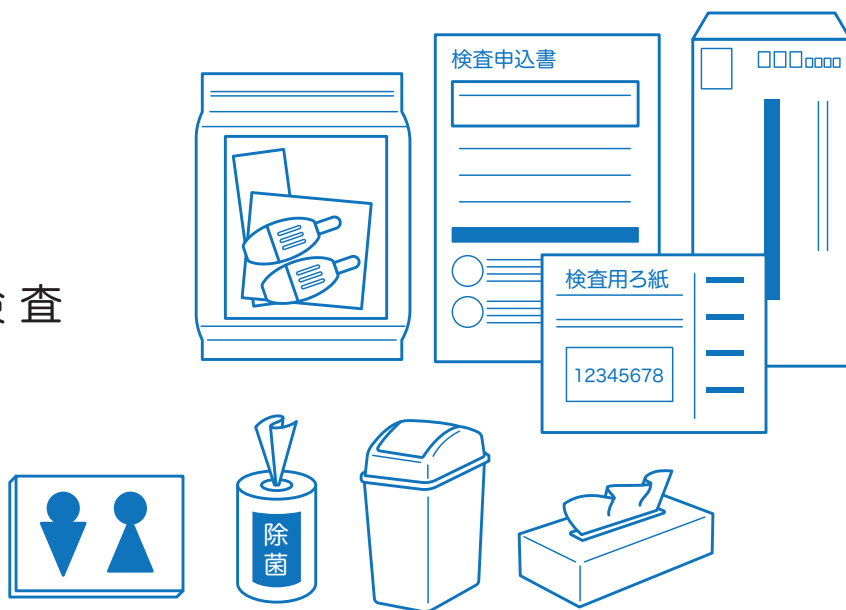
3 検査スタッフ



●検査時には少なくともスタッフ1名が常駐し、補助する必要があります。具体的には、検査キットの配布と説明、検査申込書への記入や自己採血、返信用封筒への封入、投函といった各作業への補助が挙げられます。

●検査を完了した受検者に対して、HIV検査の結果は他の健診結果と別に、受検者本人が検査会社のサイトにアクセスし、確認する必要があることを付属のHIV検査説明書に基づいて説明します。

4 検査



●机を共有して自己採血をする場合、書類や検体の取り違えが発生する可能性があるため、自己採血を行うにあたり十分な広さの机を複数台配置してパーティションで分割する、もしくは一人ずつ対応します。

●必要に応じて手洗いができるように流し台やトイレがある場所を掲示します。また、机を清潔に保つために除菌シート、ティッシュやごみ箱を設置します。

●郵送検査キットには、商品説明書、検査申込書、返信用封筒、HIV検査説明書、器具取扱説明書と採血セットが入っています。

●各書類の確認、必要事項の記入、自己採血、郵送物への封入といった一連の流れがスムーズに行われるように受付で事前説明するとともに、自己採血スペース周辺に検査キットの使用手順を掲示します（添付資料3）。

●郵送物を投函箱に投函したら受検者本人の作業は完了です。投函箱は外から中が見えない容器にしてプライバシーに配慮します。スタッフが郵便物（検体）を回収した後、郵便局窓口で一括での発送手続きを行います。

5 検査トラブルへの対応



●迷走神経反射や出血トラブルに備えて少なくともスタッフ1名が常駐する必要があります。

●器具取扱説明書の注意事項を参考に、以下の者は検査を控えるように説明します。

- ・出血性の疾患で止血機能が低下している者
- ・特定の疾患の治療中で薬剤を内服し、止血機能が低下している者
- ・ショックアレルギーの既往や出血した場合に血の止まりにくい者

●アルコール消毒にアレルギーがある方には付属の消毒綿を使用しないようにします。

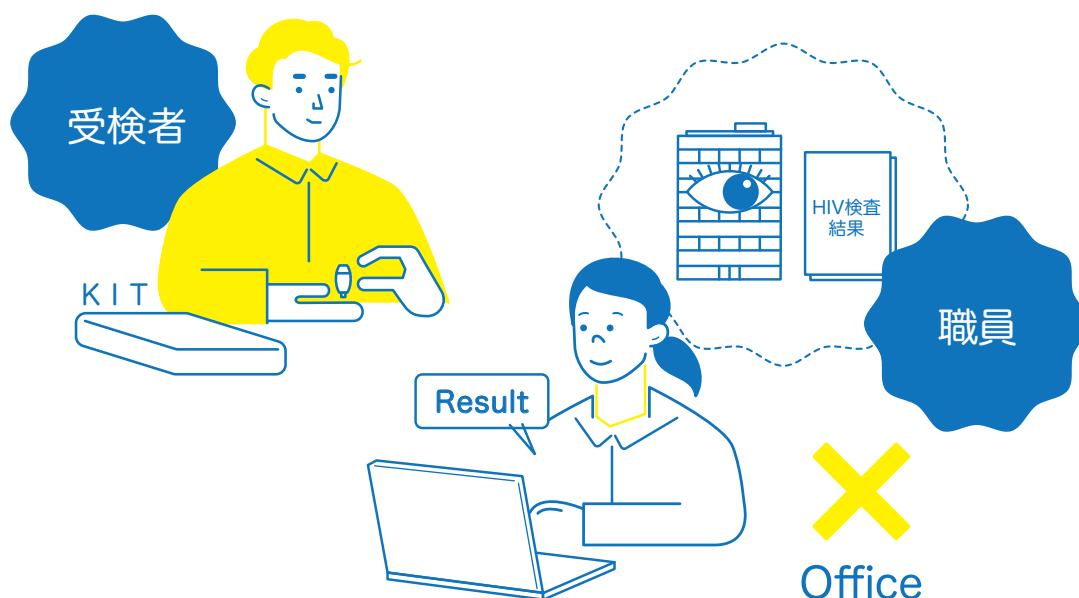
●必要な採血量が接種できなかったときは予備のランセットを使用します。

●HIV検査に関する問い合わせは検査会社の窓口に行うよう伝えます。

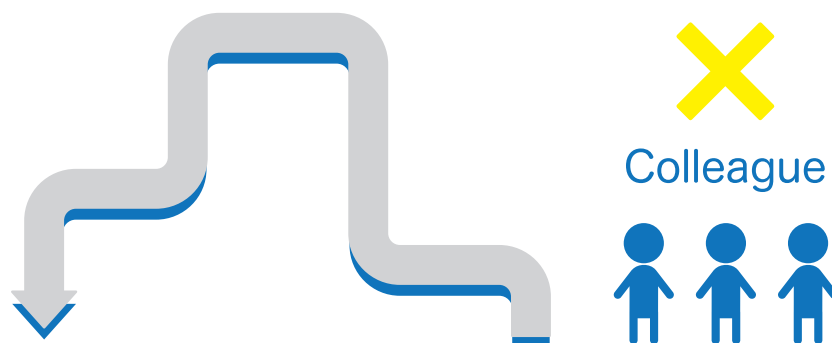
NOTE

郵送検査キットは管理医療機器等（クラスII）に該当するため、サービス提供にあたっては都道府県知事（市長又は区長）への届出（薬機法39条の3第1項）や管理者（医師、歯科医師、薬剤師等）の設置（同法39条の2第1項）が必要です。

【3】職域健診のオプションとして提供する際の留意点



- HIV検査の結果を職場や健保組合の職員が把握しないよう注意を促します。経費手続き等で受検の有無に関する情報を職場の職員が扱う場合、本情報を取扱う者の範囲をあらかじめ取り決めるなど、職場内部における適正な取扱いを定めて運用します。
- 事前に職場で教育研修を行い、職員がHIV検査の意義や方法について理解を深めた上で実施できるよう支援します。
- 同じ職場から複数の職員が一斉に健診施設で健診を受ける場合、職員間の時間的間隔を十分に確保するなどして、可能な限りHIV検査を行うタイミングがずれるように工夫します。



HIV検査を受けてみませんか？

エイズとは、HIVというウイルスの感染によっておこる病気です。HIVは性行為や血液を介して感染しますが、かなり病気が進行するまで自覚症状がでないことも多く、早期発見と治療のためにHIV検査が大事です。昔は不治の病というイメージがあったエイズですが、治療の進歩によりHIV感染早期にきちんと治療を受ければ、エイズを発病することもなく、普通の生活を送ることができるようになってい

ます。
郵送キットを利用した検査を通して、HIVに感染している可能性をスクリーニングできます。郵送キットは、ランセットという小さな医療用針を用いて指先から微量の血液を自身で採取し、検査機関に郵送することで、検査結果をウェブサイトで見ることができる匿名のサービスであり、比較的手軽に検査できることから近年急速に普及しています。

検査は任意ですが、この機会にぜひ受けてみてください。

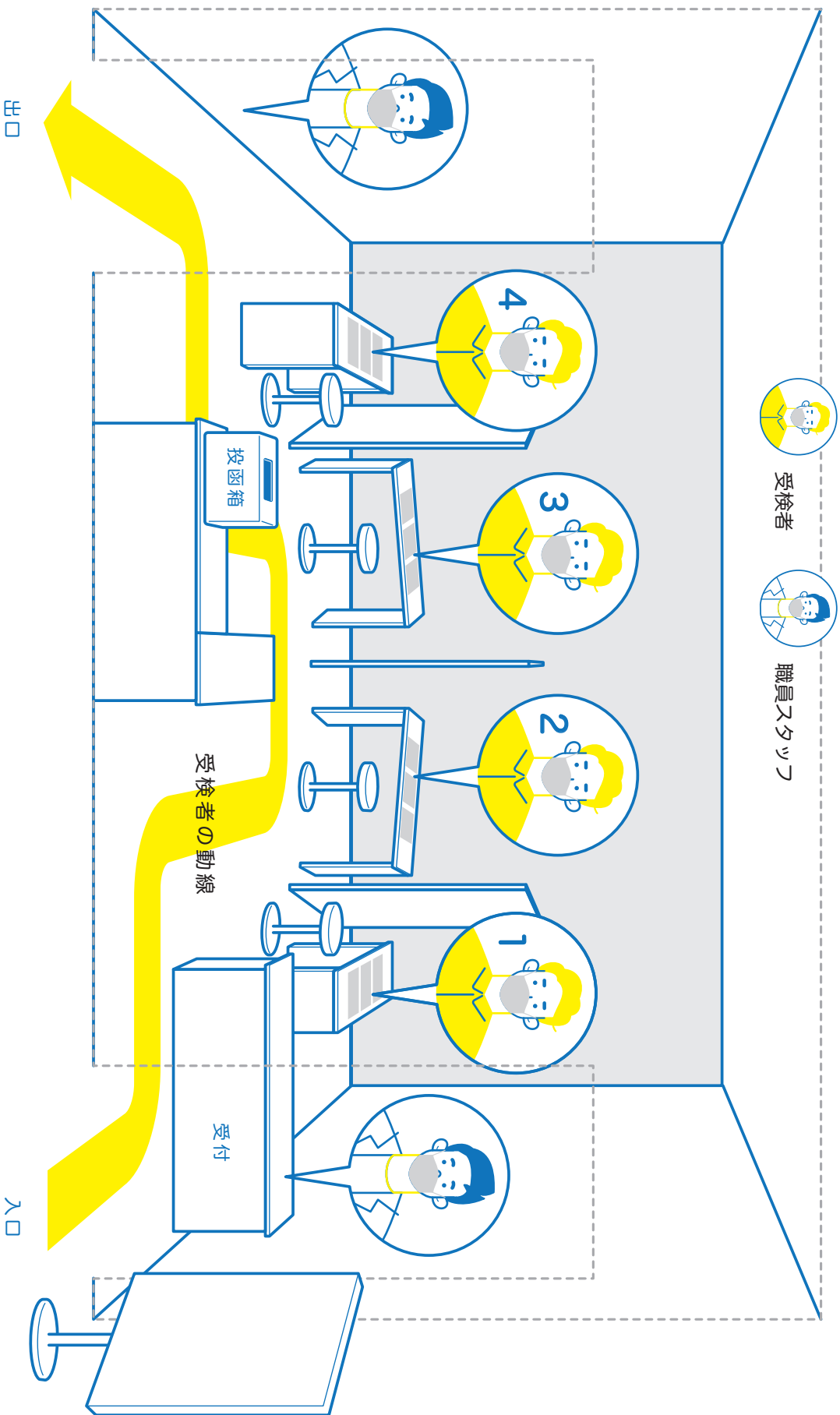
※HIV検査を希望する方のみ、

ご記入の上、一般健診受診時に受付にご提出ください。

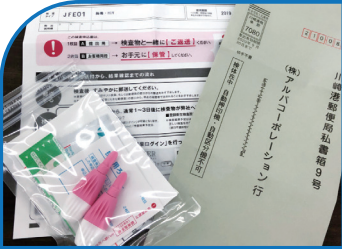






年 月 日

氏名	
生年月日	年 月 日
住所	
電話番号	() -

検査会場のレイアウトイメージと動線



添付資料3. HIV自己検査キットの使用手順(1)

	<p>1 開封したキット全体</p>
	<p>2 検査申込書に必要事項を記入します。ここで申込ID(8ケタの予約番号)やパスワード(ご自身で決めて頂きます)を記入します。採血用紙のオモテ面にもID(上記予約番号)を記入します。</p>
	<p>3 針を刺す部分を同封されているアルコール綿で消毒します。</p>
	<p>4 ランセット針の保護キャップをねじって引っ張り、ホルダーから取り外します。</p>
	<p>5 ホルダーを指で保持し、刺す場所を選び、皮膚を張らせた状態でホルダーの先端部分を刺す場所に押し当てます。</p>
	<p>6 「カチッ」と音がするまでさらに押し付けます。</p>
 <p>血玉になるまで ためる</p>	<p>7 指先に血をためます。血玉になるまでできるだけ多くの量をためてください。血が止まりそうな場合、指先に向けて押し出すようにマッサージすると効果的です。</p>

添付資料3. HIV自己検査キットの使用手順(2)



8 出てきた血液はろ紙に染みこませます。
 どんどん指の腹を押して、
 血液を出してはくり返し染みこませます。



9 規定の線までろ紙に血液が染みこんだら
 検査完了です。(1項目につきろ紙1本使用)



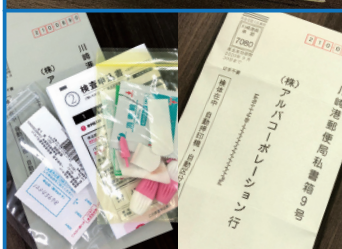
10 同封されている絆創膏を貼ります。



11 ろ紙は採血セットが入っていた袋（透明な袋）
 に入れます。



12 ごみは全て黄色い袋に入れます。
 (検査会社にて医療廃棄物を処理してもらうため)



13 ろ紙と検査申込書の1枚目、
 ごみの入った黄色い袋をすべて封入して完了です。



2023年1月

令和4年度 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業

「職域健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査体制の構築に向けた研究（代表研究者：横幕能行）」

(20HB1004)

研究分担者 産業医科大学産業生態科学研究所環境疫学研究室 石丸知宏